

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども支援室 えがお		公表日 2025年 3月30日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		玩具を出すときのスペース作り	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		1対1以上配置している	支援が過剰にならないように
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	バリアフリーにはなっていないが、まだ体が小さいので、身体介助で未歩行も受け入れられる	向上上むつかしい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		環境の整備、掃除、消毒作業を行っている。	口に入れるよだれなどが多いので消毒は行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	△		個別の部屋はないが、洗面所を利用したりしているが職員と一緒に、または見守りをしている。	個別の部屋を求める子は利用していない
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	△		働く時間帯等皆違うため、設定することが難しいが、始まる前、終了時進行リーダー等と話し合いをしたり、振り返りシートを記入している。 放課後とは違い午前なので、職員の時間はある	広く参画することはむつかしいが話し合ったことを伝えていくようにまたリーダーは意見等の声を拾っていく。話し合いの時間に参加する職員を固定しないように、各職員の勤務時間を考える。残業休日もある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価に限らず、日頃より保護者からの意向等は伝え合うようにしている。	具体的にどう意向要望に沿うようにしていくかなど、意見を出し合っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		記録を読んでもらったら意見を聞くようにしている。	職員の意見をまとめ、実践に移していくかまで、話し合うようにする。遠慮なく意見の言える環境関係を作る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		適格の人を捜し依頼をする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	△		SNSなどを利用して勉強内容を共有。 研修の案内が来た時など、配置を考えながら参加している。	勤務時間内に研修は持てることが難しいので、数人で同じ研修を見てもらったり短時間での内容を提供し、共有できるところまで持っていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	△			周知が難しい。プログラム活動をホームページやお手紙を使って必要なことは職員、保護者と共有できるようにする。アプリ等を考えていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		子どもからのニーズを引き出すのにはむつかしさはある。また、保護者のニーズが子どもにあってるかという内容は保護者と一緒に考える	保護者の意向は大切に発達段階順番をお伝えする。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達の進行リーダーを配置することで、責任をもって行える	任せる、任されることで意識変革となる。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	△		活動の中での個別的なプログラムを意識して取り組む	担当制にして具体的にどう支援をしたらよいかの共有はしているが支援の実施のむつかしさが有る。研修が必要
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	△		検査キッズを使って保護者に記入をしてもらう。円城寺やポーターページを使って主に発達をアセスメント	心理士等の専門職がいないので、検査はできないが受診された時の結果等を聞くようにし、関係医療機関との連携に心がける。 保護者と一緒にチェックする検査ツールの利用
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者参観や兄弟児参加の企画招待を行った。 地域支援地域連携は弱い	参観兄弟参加は企画として継続して行っていく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		進行リーダー中心に計画をしている。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童発達とは繰り返し行うことで、理解が進み模倣、楽しみになることがあるので、同じことをすることはある。	獲得してきたら少しずつ変えていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	△		小集団なので個別的には活動で1対1付き個々にアプローチをしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の打合せ、記録ノートを読む伝え合うように心がけているし、リーダーは聞くようにしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後、昼からは時間で区切っている、話し合うように心がけているし、リーダーは聞くようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		シートを利用して担当児の姿を記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		参観を設定し子の姿を定期的に見に来ていただくようにしている。	いつでも参観どうぞという開かれた環境作り
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本児童発達支援管理責任者が参加しているが、関係機関等は職員が参加、同席をするようにしている。。	職員の会議などの参加の姿勢や内容等の知識力を育てていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		担当者会議、連携には心がけている。	進級、進学するときは連携は大切なので、連絡を取る
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		園等が許可していただけるように信頼関係を作る。 園での様子を見させていただいたり、支援をいっしょに考えたり話し合いの時間をつくってくださる園もある。	保護者を通して、送迎時等に簡単な情報交換を行い共通の認識をもてるようにする。 大きな集団での困り感を聞く。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		支援内容をお渡ししたり、成長記録の活用をしている。	成長記録に個別計画などをファイルしていただく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	△		課題の大きさによって事業所では解決できない問題に対しては、連携をお願いする。 が、ケースの共有など時間もかかった。	子ども連絡会での相談事の流等を聞いたが、実際にはそちらでやってくださいということもある。また、忙しくてなかなか動けないこともあるので、事業所部会等でどんなケースは等の意見交換をする
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	近くの小規模保育園との交流をお互い計画したが、感染症がいろいろ流行ったりして実現できていないがウエルカムなので、園を併用していない子を中心に行っていく	各園の許可もいるので難しさがあるのが課題
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		取り組みでの様子を伝えたり、写真をSNSで送ったりして子どもの様子をより見えるかを心がけている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	開催できる職員の育成	児童発達での開催は開催する意義は大きいがい人では開催できないので開催できる職員を増やすために知識を深める。研修会への参加をしていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時変更時に説明	説明できる職員の育成。 提示しただけにならないように随時、提示説明をする。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約、モニタリング時に話を伺う。 活動時に子どもと話をし、子どもの考え等を引き出す。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画作成時に行い同意を頂く。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者との連絡を密にとるようにしている。 必要に応じ話を聞く時間を作っている。	放課後は（年齢も上がることで）進路の相談が増えてくるので、情報を収集する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		兄弟児を招待する取り組みを行っている。 父母、保護者会などのニーズは保護者からは出てきていない。 外国籍の方々向きには通訳さんを依頼して会を開催好評であった。	ニーズに合わせた会合開催にはニーズがあると思うので、ニーズに合わせた会合を企画
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの意見要望はうかがう姿勢を取っている。苦情はないが、保護者からの意見は共有し対処していく。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	△		SNSを利用したりしている。	共有できるアプリの使用など考えていきたいと思っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分に注意を払っているつもりではいるが、SNSに写真をアップしたときに個人を特定できないようにはしているが、拡大すると名札で名前が読み取れる、背景から名前が知られることもあったので十分に注意していく	写真、情報の取扱いに対して、職員保護者と共有
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意志の伝達等が出来るようにツールを使う等している。特に外国籍の方には携帯などでの翻訳機能利用をする。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方を招待するなどの行事は行っていない。 地域に開かれたという意味では、積極的に地域にかけつけるなどしている	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	△		マニュアルを玄関に置いてあっても、手にとってまでは読まれていない。	保護者に周知する方法を、置いてあるところを知らせ呼んでいただくことを伝える。 アプリ等での共有を考える。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	△		BCPは作成しているが、実際に職委員が残れるか、集まれるかはマニュアル通りにはならない。	事業所に合った職員に合った事業所に合った内容を考え訓練していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		実際に食物アレルギーのお子様がいらっしゃるので、保護者からのヒアリング、状況の共有、病院同行等している。発作は保護者に来所していただき、発作時の様子や対処の仕方を学んだ	利用日はヒアリングをし記入、蕁麻疹が出たときなど保護者に連絡指示を仰ぐ来ていただくようにしているので継続、新入職員にも周知
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		病院同行をした。 保護者からも病院の指示書や治療内容等伝言していただいている。食事の時は離れた場所	みんなと食べたい等意向もあるので、環境を考えていくが、集団の場として保護者、児にも理解してもらえようように話をわかりやすいように伝え配慮に同意をもらう。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	△		器具の安全等目に見える物環境の整備等はできているが、予測してうまくいかないこともある。	器具の点検等、始まる前に点検 気を付けることなど職員間で周知する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	保護者への周知は活動での記録連絡でしか行えていない	計画の周知
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット記入を促していく。	記入をみんなで声をかけていくようにする。 ヒヤリハットの意義を伝えていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修、声掛け、困難の抱え込みをしないように	疑われることが有った時の連絡などの共有していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		支援の上で、身体に触ることや補助ベルト等を使う等保護者に説明をしている。	